

資料を活用した授業開発

－中世の商業を主題として－

山名 敏弘

現行学習指導要領の中学校社会科(歴史的分野)の目標の1つには、「身近な地域の歴史や具体的な事象の学習を通して歴史に対する興味や関心を高め」ることと、「様々な資料を活用して歴史的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる」ことがあげられている。また、日本史の研究の視点として、近年各地の遺跡からの出土品やさまざまな文献が注目され、それらをもとにして中世の人々のくらしや文化を明らかにしていく取り組みが盛んに行われている。これらに基づき、草戸千軒町遺跡という生徒にとって身近な地域の歴史を扱いながら、同遺跡からの出土品や同遺跡に関わる文献などの資料を活用し、生徒が中世の人々のくらしをより深く理解できる授業開発を行っていくことにした。

1. はじめに

近年、中世の遺跡の発掘が進み、中世の民衆の暮らしが次第に解明されるようになった。このような発掘や研究の契機となったのが広島県福山市の草戸千軒町遺跡の発見である。この遺跡の発見によってそれまで多くの謎に包まれていた中世社会の様相が次第に明らかにされてきたのである。この遺跡は生徒にとっても中学校入学以前からなじみの深い遺跡であり、この遺跡の出土品や遺跡に関する文献資料を用いて、中世社会を展望する授業を開発していくことにした。

2. 教材開発の視点

(1) 指導の意義と目的

現行学習指導要領の中学校社会科(歴史的分野)の中世の日本の分野では、①武士が台頭し武家政権が成立したこととその後の武家社会の展開を鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府、応仁の乱後の社会的な変動を通して理解させるとともに、元寇、日明貿易、琉球の国際的な役割など、その間の東アジア世界とのかかわりに気付かせる。②農業などの諸産業が発達し、畿内を中心とした都市や農村に自治的な仕組みが生まれたことを理解させるとともに、武士や民衆の活力を背景にして生み出された新たな文化の特色について考えさせる。という2つの内容が設定されている。今回は、このうちの②に着目し、身近な遺跡とそれに関わる資料を用いながら授業開発を行うこととした。

中学校社会科の歴史的分野の教科書の中世の部分には、鎌倉幕府の成立以降の政治史的な記述に加えて、社会経済史的な記述もほかに多く見られるようになってきた。しかし、前述の②に着目して授業を開発する場合、農業

や手工業・商業の発達についてより具体的な資料の提示が望まれる。また生徒にとって身近な遺跡などを事例に挙げて生徒の興味・関心を喚起することも重要である。また、教科書や図表などの副読本に掲載されている図版を用いるだけでなく、それら以外の資料を用いることによって生徒の学習意欲も増すことができる。以上のようなことから、生徒にとって身近な草戸千軒町遺跡を題材としてそれに関する諸資料を用いて中世の商業や人々のくらしを明らかにしていきたい。

(2) 「室町時代の商業と人々のくらし」の教材開発

① 学習の意義と授業に向けた取り組み

近年、中世の遺跡の発掘や調査・研究が進み青森県の十三湊や福井県の一乗谷など中学校社会科歴史的分野の教科書や図表などに取り上げられる事例も増えてきた。草戸千軒町遺跡は生徒にとって身近であるだけでなく、日本の中世社会の民衆の生活が解明されるきっかけとなった遺跡でもあり、これを題材としてとりあげることにした。対象とする時代としては、同遺跡が最も繁栄していたとされる中世後期すなわち室町時代に設定した。この遺跡からは、建物跡や護岸施設などの建造物の遺構の他、当時の人々が使用した道具や生活用具、食料としていた動植物の遺物なども多く発見されている。それらの中で特に道具や生活用具に着目することにした。遺跡から出土した銅銭・木簡・陶磁器から当時の人々の商業や金融、流通の実態が明らかになっていく。また、生徒に生の資料を見せたいという思いから草戸千軒町遺跡研究のパイオニアである広島県立歴史博物館へ問い合わせたところ、同博物館のご厚意により、中国製の銅銭、中国製や国産の陶磁器片、常滑焼の大甕の口縁部といった貴

重なる同遺跡の出土品を借り受けることができた。同博物館からは出土品やその梱包・運搬・保管などについての丁寧な説明や助言をいただき、大いに役立った。これらの考古資料と文献資料をもとに当時の商業や人々の暮らしについて生徒の理解がより深まることを意図した。

②指導案の内容構成

この単元では、まず生徒に近辺の室町時代の遺跡を想起させる。次に「室町時代の人々の暮らしと商業はどのような関わりをもっていたのだろうか。」という単元を貫く問いを設定する。展開部では、草戸千軒町遺跡をとりあげて示す。同遺跡から中世の人々の暮らしがわかる貴重な出土品や建物跡や護岸施設が発見されたことを説明する。次に同遺跡をとりまく環境について、資料①を示しながら、河口付近にあり、西側には長和荘という荘園や常福寺という寺院があったことを指摘し、荘園に関わる物資の輸送や寺院への人々の来訪に草戸千軒が関わっていたことを生徒に考えさせる。さらに資料②

～⑤・⑦を示しつつ井戸・動物や魚の骨・植物の種・銭・陶磁器・漆器・鉄製品・木製品などの遺構や出土品から当時の人々がそこで生活し、商人や職人も住んでいたことを理解させる。中国製の銅銭や資料⑥・⑦をもとに、甕の中の1万2千枚余りの銅銭や金銭の貸し付けを示す木簡から商業や金融の発展を理解させる。次に中国製と日本製の陶磁器片を6グループごとに観察させ、資料⑧・⑨を示しつつその産地を示す。これらの陶磁器が中国・岡山・兵庫・愛知など各地から運ばれたことを理解させる。さらに常滑焼の大甕の口縁部を見せる。このような甕は水や染料などを入れるために必要であったことを指摘する。高さ1mの完成品の場合、約37kgの重量があり、それらから専門の運送業者の存在や水運の発達を生徒に想起させる。終結部では、農業や漁業・手工業の発達・都市の発達・銭の流通・運送業や水運の発達などが商業の発達を促し、室町時代の人々の暮らしを支えていたことを生徒に理解させる。

3. 小単元「室町時代の商業と人々の暮らし」の学習指導案

I. 単元

「室町時代の産業と文化」

II. 単元のねらい

室町時代の産業の発達と都市・農村のつながりやそれらがどのように文化に影響を及ぼしていくのかということを考えさせる。

III. 単元計画

- (1) 「産業と都市の発達」(1時間)
- (2) 「村の自治の発達」(1時間)
- (3) 「室町時代の商業と人々の暮らし」(1時間)…本時
- (4) 「室町時代の文化」(1時間)

IV. 本時の主題

「室町時代の商業と人々の暮らし」

V. 本時のねらい

身近な遺跡からの出土品や遺跡に関する資料を通じて室町時代の人々の暮らしの実態を理解させ、それをもとに当時の商品流通のしくみや商業の発展の経緯を考えさせる。

VI. 本時の目標

- (1) 草戸千軒町遺跡には多くの商人や職人が住み、遠隔地や荘園から運ばれる物資が集まり、にぎわいをみせていたことを理解させる。
- (2) 草戸千軒町遺跡では中国製の銅銭が用いられ、商品の売買、銭の貸し借りに用いられていたことを理解させる。

(3)室町時代には、諸産業の発達や都市の発達、銭の流通の拡大や交通の発達によって商業が発達し商品流通が促されたことを理解させる。

VII. 授業展開過程

	教師および生徒の活動	教授・学習活動	学習内容および指導上の留意点
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ・室町時代の遺跡は、この近辺ではどこにあるだろうか。 ・室町時代の人々の暮らしと商業はどのような関わりをもっていたのだろうか。 	<p>T：発問する S：答える</p> <p>T：資料を配布し、説明する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・草戸千軒町遺跡，竈，尾道など ・本時の学習課題を設定する。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・本時では、福山市の草戸千軒町遺跡をもとに考えていくことを説明する。 ・草戸千軒町遺跡はどのあたりにあるのだろうか。 ・草戸千軒町遺跡は室町時代にはどのような場所にあったのだろうか。 ・草戸千軒町遺跡はいつごろ人々が住んでいたのだろうか。 ・草戸千軒町遺跡について、室町時代には何か記録が残っているだろうか。 ・草戸千軒町遺跡の近辺には、室町時代には何があったのだろうか。 ・荘園や寺院は草戸千軒とどのような関わりがあっただろうか。 ・室町時代の遺跡からはどのようなものが発見されているか。 	<p>T：説明する</p> <p>T：考えさせる T：答える</p> <p>T：資料①を見て考えさせる S：答える T：説明する</p> <p>T：資料②を見て考えさせる T：説明する</p> <p>T：説明する</p> <p>T：発問する S：答える T：説明する</p> <p>T：考えさせる T：説明する</p> <p>T：資料②～⑤・⑦と教科書P101を</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・草戸千軒町遺跡は江戸時代の洪水以来川底や地下に埋まっていた。 ・草戸千軒町遺跡からは、中世の人々の暮らしがわかる貴重な出土品や建物跡が多く発掘された。 ・現在の芦田川下流の中州 ・川の河口部付近 ・当時の海岸線は現在よりも内陸部に位置していたこと、芦田川の流路も現在と異なっていることを指摘する。 ・主に鎌倉時代・室町時代 ・「草津」，「草井地」などの記録がある。 ・遺跡の西側の現在の瀬戸町，明王台，田尻町あたりにかけて長和荘という荘園があった。 ・遺跡の西側の現在の明王院の位置に常福寺という寺があった。 ・荘園から物資を運ぶ ・寺院を訪れた人々が立ち寄る ・草戸千軒町遺跡をもとに考える。 陶磁器，漆器，魚や動物の骨，植物の種，

	<p>ープごとで見させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような特徴をもった陶磁器があるか。 ・これらの陶磁器はどこでつくられたものだろうか。 ・陶磁器の産地をプリントに記入させる。 ・草戸千軒町遺跡から出土した陶磁器の中で、最も大きいものはどれくらいの大きさがあるだろうか。 ・大甕の一部を見せ、産地や大きさ・重さを説明する。 ・なぜこのような大きな甕が必要だったのだろうか。 ・だれがこのような大きな甕を運んだのだろうか。 	<p>T：発問する S：答える T：説明する</p> <p>T：発問する S：答える T：説明する</p> <p>T：説明する S：まとめる</p> <p>T：発問する S：答える T：説明する</p> <p>S：観察する T：説明する</p> <p>T：発問する S：答える T：説明する</p> <p>T：考えさせる T：説明する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・光沢・文様のあるもの ・緑、白、茶色、赤茶色、灰色、など ・中国の長江以南、 亀山、備前(岡山)、魚住(兵庫)、 常滑(愛知)中国 ・実物の陶磁器を思い浮かべながら記入させる。 ・直径や高さが約1mのものがある ・産地は常滑(愛知) ・この大甕の一部は直径約80cm、重さ約16kg、直径と高さ約1mの完成品で約37kg ・水などを入れるためのために必要。 ・井戸は共同で使用していた。 ・染料などを入れる場合もあったことにもふれる。 ・大甕は大人2～3人でようやく運ぶことができる。 ・専門の運送業者
展	<p>・室町時代には、このような陶磁器は産地からどのあたりまで運ばれていたのだろうか。</p> <p>・室町時代の人々は、このような陶磁器を産地から各地へどのようにして運んだのだろうか。</p> <p>・室町時代の人々の暮らしを支えていたものは何だろうか。</p>	<p>T：資料⑧、⑨を示しながら考えさせる T：説明する</p> <p>T：発問する S：答える T：説明する</p> <p>T：考えさせる T：説明する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・産地から遠く離れた地方にも運ばれている ・船で運んだ ・瀬戸内海で沈没船から備前焼などの陶磁器が発見されていることも説明する。 ・農業・漁業・手工業の発達 ・都市の発達 寺社の門前、港、川と海の接点、街道沿いなど ・銭の流通
開			

			・運送業や水運の発達、港の整備 陶磁器、銭などは遠隔地から運ば れてきたことを強調する。
終 結	・室町時代の人々のくらしは、 商業とどのように関わっていた のだろうか。	T：説明する S：まとめる T：確認する	・農業・漁業・手工業の発達や都市の発達、 貨幣の流通や運送業・水運の発達によって、 室町時代の商業が発展していったことを理解 させる。

5. おわりに

草戸千軒町遺跡に関わる資料をもとに、室町時代の商業や人々のくらしを明らかにしていく授業において、生徒は実物の銅銭や陶磁器に高い関心を示したが、室町時代の商業の発展についての理解を深めるためにさらに改善の余地がある。商業や流通に関わるさらに具体的な事例を盛り込んでいくことや日本と東アジア諸国との関係や中世全体での枠組みで商業を捉えていくという視点を取り入れることも大切である。最後に、資料の貸し出しなどでお世話になった広島県立歴史博物館の職員の方々に心から感謝の意を表します。

考古資料：常滑焼甕口縁部、国産陶器片、中国産磁器片、中国製の銅銭(以上広島県立歴史博物館所蔵)

印刷資料：

- ①地形図「中世芦田川三角州の復元」(広島県草戸千軒町遺跡調査研究所編『草戸千軒町遺跡発掘調査報告』広島県教育委員会、より作成)
- ②図「草戸千軒町遺跡の町割の変遷」(網野善彦・石井進・福田豊彦監修、松下正司編『よみがえる中世【8】一埋もれた港町草戸千軒・鞆・尾道一』平凡社、より)
- ③写真「漆工具・漆用の砥石」(岩本正二『草戸千軒』吉備人出版、より)
- ④写真「鉄製品」(『よみがえる中世【8】一埋もれた港町草戸千軒・鞆・尾道一』平凡社、より)
- ⑤写真「大工道具」(『よみがえる中世【8】一埋もれた港町草戸千軒・鞆・尾道一』平凡社、より)
- ⑥絵・書き下し文と口語訳「金銭を貸し付けたことが

記された木簡」(広島県立歴史博物館『中世民衆生活と文字—木簡が語る文化史—』広島県立歴史博物館、より)

- ⑦地図「草戸千軒町遺跡の周辺図」(広島県草戸千軒町遺跡調査研究所編『草戸千軒町遺跡発掘調査報告』広島県教育委員会、より)
- ⑧地図「珠洲焼と常滑焼の分布」(脇田晴子「中世土器の流通」(『岩波講座 日本通史第9巻中世3』岩波書店、より)
- ⑨地図「常滑焼、備前焼の西日本分布図」(脇田晴子「中世土器の流通」(『岩波講座 日本通史第9巻中世3』岩波書店、より)

主要参考文献

- 網野善彦・石井進・福田豊彦監修、松下正司編『よみがえる中世【8】一埋もれた港町草戸千軒・鞆・尾道一』平凡社、1994年
- 志田原重人「草戸千軒にみる中世民衆の世界」(網野善彦・石井進編『中世の風景を読む6—内海を躍動する海—の民—』新人物往来社、1995年)
- 広島県草戸千軒町遺跡調査研究所編『草戸千軒町遺跡発掘調査報告』広島県教育委員会、1993～1996年
- 広島県立歴史博物館『中世民衆生活と文字—木簡が語る文化史—』同博物館、2000年
- 岩本正二『草戸千軒』吉備人出版、2000年
- 脇田晴子「中世土器の流通」(『岩波講座 日本通史第9巻中世3』岩波書店、1994年)
- 笹本正治『日本の中世3 異郷を結ぶ商人と職人』中央公論新社、2002年